

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1870300199
法人名	医療法人 斉藤医院
事業所名	グループホーム藤の園
所在地	福井県越前市北府3丁目10-21 (電話) 0778(25)5001

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年3月13日

【情報提供票より】(平成20年1月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	82 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 斉藤医院(内科)
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療・福祉を展開し、地域に根ざした医療法人を母体を持つこのグループホームは民家が並ぶのどかな場所に立地し、リビング、居室ともにとっても広くゆったりと過ごすことができます。リビングは大きな窓からの採光で非常に明るく清潔感があり、入居者手作りの作品が多く飾られ温かさを感じる空間となっています。そんな中で入居者は自由に自分のペースでゆったりと過ごされています。また医療法人の特性を活かし9名の入居者すべてに月1回の医師の往診、訪問看護師が毎日訪れ、充実した安心な体制となっています。同法人の事業所も近くにありイベントに参加したり、散歩の帰りに立ち寄るなどして交流を深めています。区長の協力もあり、これからの地域との交流もさらに期待されるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	1ヶ月に1回の全体会議の開催や感染予防のため共有のタオルを廃止するなど、前回の改善点、今回の自己評価で気づいた点など、改善に向けて取り組んでいます。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について全職員で実施する事の大切さを理解しており、今回も職員全体で取り組み管理者中心にまとめられています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、区長、民生委員、市職員、法人の副院長、訪問看護師、相談員等が参加する会議では、ホームからの活動報告のほか、入居者の状況報告等を行い参加者の意見を求め活発な意見交換をしています。さらに、それを分かりやすく議事録にまとめ全家族に配布しています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情連絡先については重要事項説明書・ホームの掲示板に記載されており、家族がホームに来られた際には意見を聞くように心掛けています。また運営推進会議でも意見や要望を表せる機会にもしています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区長にお願いをして町内の回覧版や市報が届けられ町内の活動・行事などの情報を得ています。今後、様々な活動に参加し、地域住民との交流を図られる予定です。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全体で話し合って作られたホーム独自の「友とまじわり、地域とまじわり、小さな家庭に、大きな笑顔が」という理念がリビングの目につきやすい所に大きく掲げられている。その中には地域と共に家庭的で笑顔の絶えないホームを目指すという職員の思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回実施の職員全体会議で確認し合い、日々それを念頭に置きながら実践に向けて取り組んでいる。また、職員が気を引き締めてケア出来るように目のつきやすい場所に掲げられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長の配慮により、町内の回覧版、市報等が配布され町内の活動・行事等の情報を知ることができる。また法人内の高齢者住宅のイベントに参加し、その住民との交流を図っている。また、散歩時等では挨拶も交わしている。	○	グループホームの2階で実施しているいきいき介護教室や地域のイベント等に入居者と一緒に参加し、住民との交流や幼稚園、学校との交流を図る事が今後期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全体で話し合い、管理者中心に記入したものを職員全体が目を通しまとめあげられている。前回の改善点・今回の自己評価で気づいたこと等、改善にむけて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、区長、民生委員、市職員、法人の副院長、相談員、訪問看護師等が参加する会議では、ホームからの活動報告のほか入居者の状況報告等をし、参加者の意見を求めたりしながら、活発な意見交換をしている。わかりやすくまとめられた議事録は家族全員に配布をしている。		

グループホーム藤の園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定調査の更新時に市担当者と意見交換をしている。	○	市担当者と行き来する機会をつくり、さらに連携を密にすることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来られた際や電話にて日頃の様子や健康状態等について伝えている。また、金銭管理については個人の出納帳に記入をし、面会時に確認の捺印を貰い、領収書を渡している。さらに年に4回、季刊誌を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情連絡先については重要事項説明書・ホームの掲示板に記載されており、家族がホームに来られた際には意見を聞くように心掛けている。また運営推進会議でも意見や要望を表せる機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員には入居者の一人ひとりについて前もって知っておくため、留意すべき内容を説明し把握して貰うようサポートしている。また、法人内グループホームの異動があるが、最小限に抑えられており、馴染みの関係でケアがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では院長自らが講師をされる研修計画があり、職員全体が参加をしている。また、介護実習普及センター主催の研修についても職員が希望するところへ参加出来るよう配慮している。研修後は、報告書を提出し全体会議において伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修・勉強会に参加したり、法人内のグループホーム職員同士の交流を通してサービスの向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学できる体制があり、本人の見学できない場合は、ホーム側から出向いて本人と面談する機会を設けている。また入居直後においては極力、職員の付き添う時間を多くとり徐々に慣れ親しんで貰うように支援している。また家族との連携も密にとり状況報告も頻繁に行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理をしながら味付けや作り方を教えて貰うなど、日々の生活の中で学ぶことがたくさんあり、家族と共に生活をしているとの思いを職員が持ち、一緒に過ごし支え合う関係に努めている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、一人ひとりの思いを把握している。また入居時に入浴・食事についてのアンケートをとり希望・意向を把握し共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの希望にそった個別具体的な介護計画が立てられている。	○	会議でカンファレンスの報告をしているが、今後カンファレンスに参加しない職員の意見も集約し、全職員の意見と家族の希望も記録し、反映される事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は半年に1回作成されており、毎月モニタリングが実施され、管理者・看護師・担当者によるカンファレンスが3ヶ月に1回行われている。入居者の状態により、その都度見直しもしている。		

グループホーム藤の園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの状況に応じて、病院の付添いや美容院への送迎、買物や散歩等の個別外出を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談し、かかりつけ医の確認をしている。ホームの協力医療機関の医師はもちろん、他の病院の医師とも連携を図っている。またホームのかかりつけ医による月に9回の往診もあり、緊急時の対応も可能な体制となっている。訪問看護師は毎日来所している。また、歯科衛生士による口腔ケアの実施・指導がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族から希望を聞き、ホームで出来る最大のケアについて説明をしている。状態が変化した場合、1週間ごとに方針について家族・医師・職員で話し合いを持ちながら対応していく体制が整えられている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを大切に、大声を出したり、否定しないように心掛けている。そのような場面があった場合は管理者よりその都度注意するようにしている。さらに名前についても名字で呼ぶよう徹底している。個人情報については事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を尊重し、それぞれのペースで過ごせるように支援している。		

グループホーム藤の園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望が反映された献立にしたり、食事作り、後片付けなど出来る事を職員と一緒にしながら支援している。また食事が楽しいものとなるように、席の配慮もしている。	○	一緒に食事をしているが、グループホームの特性を踏まえて、職員が同じものを一緒に入居者と食べながら、食事をさらに楽しむことの検討が期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	9:30～17:00まで週2回の入浴日があり、入浴時間・入浴内容については入居者の希望を取り入れ、ゆったりと入浴出来るよう支援している。また入浴日に入れない場合は翌日に入ったり、シャワー浴・清拭をすることもある。	○	入浴に関するアンケートの結果も考慮しながら、入浴回数を増やしたりするなど入居者にとって、入浴が楽しめるようなものとなるよう、さらなる工夫が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花を生けたり、お茶をたてたり、時代劇を見るなどの楽しみごとや、好きなコーヒーを飲んだり、散歩に出かけるなど気晴らしの支援もしている。また草取りをするなど、出来るだけその方の力を発揮してもらえるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、散歩や買い物など出来るだけ支援しているが、充分ではない。	○	散歩・買い物・ドライブ等、外出を通して、入居者、職員の気分転換やストレス発散も含め短時間でも戸外に出る機会を増やすための検討が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間以外開いているが、防犯対策のためフロア入口は家族の同意を得て鍵を掛けている。職員間で何度も鍵について話し合っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間想定も含めてホーム独自で区長の協力を得ながら避難訓練を実施している。また、運営推進会議において地域へ協力を得る呼びかけも行っている。		

グループホーム藤の園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況に合わせてミキサーにかけたり、とろみをつけたりしながら、一人ひとりのニーズに合わせた食事を提供している。食事摂取量、水分摂取量も記録し、栄養士と相談しながら必要な栄養量・水分量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が生けられ、リビングは広く、大きな窓からの明るい陽射しが入り、畳コーナーやソファを配置し、ゆったりと落ち着いた雰囲気となっている。入居者の手作り作品も飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたタンスやテレビなどを持って来てもらっている。希望に合わせて畳の居室の利用や、好きな花を欠かさず生けていたり、自分の作品を飾ったり、居心地よく過ごせる居室づくりがなされている。		